

●背景

パウロの嘆きと怒り ガラテヤ 2 : 11、3 : 1~5、5 : 12

●ユダヤ人と異邦人

* ユダヤ人 : 神から選ばれた民族 ユダヤ人=ユダヤ教=神との契約(律法)の下にある。

* 異邦人 : 当時、ユダヤ人からは、救いから除外された罪人と考えられていた。

しかし、創世記 3 : 8 アブラハムの子孫への約束に異邦人は含まれている。

レビ記 19 章 33, 34 節

◆当時の問題

① 異邦人も救われるのか? 救われる(ガラテヤ 1 : 16、3 : 8)

② 異邦人クリスチャンは、ユダヤ人になる必要はあるのか? ない(ガラテヤ 5 : 1~12)

●律法と信仰

* 契約 神がアブラハム、モーセ…その他に対して結んだ契約

* 律法 神がシナイ山においてモーセに与えたもの(ガラテヤ 4 : 22~25)。契約の内容。

十戒とその構造

イエスによる律法の解釈 マタイ 22 : 36~40

◆当時の問題

① 救いは律法を行うことによるのか? = 救いはユダヤ人にならないと得られないのか?

いいえ

② 救いは、信仰によるのか はい ガラテヤ 2 : 16

③ それでは、律法は、どうなるのか?

律法の役割とは?

罪を自覚させ、キリストの十字架へと導くための養育係 ガラテヤ 3 : 19~25

★律法による罪の自覚(ローマ 5 : 13)、その罪の解決がガラテヤ 2 : 19~21 に記されている

ローマ 6 : 1~8 「死んだ者は、罪から解放されている。」

●信仰による救いを得た者たちの生き方

* 律法の成就 ガラテヤ 5 : 16~26 御霊によって歩み、御霊の実を結ぶ

* 十字架を誇りとする ガラテヤ 6 : 14

●十戒 出エジプト記 20章1節~17節

わたしの、ほかに、ほかの神があってはならない。

偶像を造ってはならない。それを拝んではならない。

あなたの神の主の御名をみだりに唱えてはならない。

神を愛すること

安息日を覚えてこれを聖なる日とする。

自分を愛すること

あなたの父と母を敬いなさい。

殺してはならない。

姦淫してはならない。

盗んではならない。

隣人にたいして偽証してはならない。

隣人の家を欲してはならない。

隣人を愛すること